



平成 29 年 5 月 25 日

各 位

会 社 名 イメージ情報開発株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 代永 衛
(コード: 3803、JASDAQグロース)
問 合 せ 先 常務取締役経営管理室長 佐藤 将夫
(TEL:03-5217-7811)

中期経営計画の提出等について

当社は、平成30年3月期～平成32年3月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、以下のとおり、当該中期経営計画について、アナリスト向け説明会を開催いたします。

開 催 日 時	平成29年6月14日 10:00～11:30
開 催 場 所	本社1階会場(東京都千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル)

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

U R L	http://www.image-inf.co.jp/
掲 載 日	平成29年5月25日

【添付資料】

平成30年3月期～平成32年3月期 中期経営計画

平成30年3月期～平成32年3月期 中期経営計画

1. 今後3か年の中期経営計画

(1) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括(計画に達成状況、成果及び課題)

当連結会計年度における我が国経済は、世界経済の減速に対する長期的な不安要因を抱えながら、英国のEU離脱、米国の政権交代等に起因する予測が困難な為替・株式市場の変動に直面し、依然として景気の見通しに確信の持てない状況が続きました。

当社グループの主要な事業領域である情報サービス業界においては、企業の業績確保、拡大に向けてIT投資に積極的な取り組みがみられますが、利益率の低迷は依然続いております。

このような環境の中、当連結会計年度は、開発スキルの向上と外部人材リソースの活用等を実施してまいりましたが、前連結会計年度に株式会社アンダースを連結除外した影響等があり、売上高は804,286千円(前期比35.8%減)となりました。

利益面におきましては、販売費及び一般管理費を圧縮いたしましたが、売上原価率が上昇し、営業損失は49,139千円(前期は営業利益70,532千円)、経常損失は42,632千円(前期は経常利益62,802千円)となりました。また、株式会社北栄に対する債権に対して貸倒引当金繰入額188,145千円、および同社株式に対して投資有価証券評価損19,950千円を特別損失として計上したこと等により親会社株主に帰属する当期純損失は255,123千円(前期は親会社株主に帰属する当期純利益37,421千円)となりました。

このような状況において、当社はこれまで培ってまいりましたIT活用による提携企業へのコンサルティング機能を高め、先進的マーケティングソリューションの提供等により新たなサービスの創造とマーケットの開拓、さらに新たな異業種企業との提携による収益創出事業の展開を図ってまいります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

〔コンサルティング／設計／構築〕

企業システムのコンサルティング及び設計、開発の業務受託等につきましては、外部人材リソースを活用した受注案件の獲得に努めましたが、売上高は402,353千円(前期比23.5%減)、セグメント利益は36,988千円(前期比76.5%減)となりました。

〔運用／保守〕

企業システムの運用及び保守の業務受託につきましては、前期からの継続した受注とセキュリティ関連システムの運用商品は堅調に推移しましたが、株式会社アンダースの連結子会社除外の影響から、売上高は100,539千円(前期比35.9%減)、セグメント利益は8,758千円(前期比53.1%減)となりました。

〔商品販売〕

商品販売につきましては、大手企業への設備機器受注により、売上高は125,786千円(前期比67.4%減)となりましたが、利益率は低く、また業務間接費を多く負担した影響からセグメント損失は19,333千円(前期はセグメント損失1,164千円)となりました。

〔BPO／サービス〕

BPO(業務アウトソーシング)及び決済等各種サービスの提供につきましては、継続的な取引による売上を確保し、売上高は175,607千円(前期比4.8%減)、セグメント利益は20,377千円(前期比117.3%増)となりました。

(2) 中期経営計画の概要及び策定の背景

当社グループは、ビジネスインテグレータを標榜し、IT戦略を核に企業ビジネスのサポートを担ってまいりましたが、時代の変化や顧客ニーズの多様化に合わせ、

① IT活用による先進的マーケティングソリューションの提供 ②新規ビジネスサービスの創造と実践 を経営の基本方針としております。

当社グループは、ヒト/モノ/カネ/情報をネットワーク化し、組織やサービスを束ね、顧客企業と共に永続的成長を目指した「プラットフォームビジネス」を最大の経営テーマとしております。

当社グループは、平成29年6月28日に開催される第42回定時株主総会議案として会社分割による持株会社への移行の新設会社分割計画のご審議をいただくことにしております。承認可決されることが条件であります。平成29年10月に会社分割による持株会社体制への移行により、事業の多角化や機動的な事業再編を確保します。情報サービス業界に求められる高付加価値サービスを提供すべく、関連会社及び提携企業との連携強化によるプラットフォームビジネスへの深耕を図ってまいります。

当社グループは、平成30年3月期では引き続き外部人材リソースの活用によるシステム構築受注拡大を図ります。加えて、業務提携先の開拓につとめ、IT技術力を活かせる新分野への進出もめざしてまいります。

平成29年3月期通期においては、事業の多角化や事業再編により、平成30年3月期通期において売上高883百万円(前期比9.8%増)、営業利益61百万円(前期は営業損失49百万円)、経常利益61百万円(前期は経常損失42百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は52百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失255百万円)を見込んでおります。

今後さらなるマーケティング戦略の強化を図り、新たな事業領域を開拓することにより、収益性の向上をはかり、本中期経営計画の最終年度平成32年3月期におきましては、売上高1,178百万円、経常利益253百万円を計画いたしております。

(3) 事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件

当社グループは、システム設計を主力事業とし堅実な受注拡大に加え、総合コンサルティング業務の受託等、新たなサービスの創造とマーケティング戦略を駆使した新たな市場の開拓に注力してまいります。

コンサルティング/設計/構築分野は、大手企業等からの受注を獲得するなど、今後の見通しは、主力取引先業界(クレジット・製造・流通)を中心に継続的な受注獲得に加え、営業力強化により新規受注の拡大を図ってまいります。また、取引先の発展に貢献でき、利益率の高いコンサルティング事業等の強化により、セグメント利益の大幅な改善を図ります。

運用/保守分野では、大型システム設計案件の増強に伴う設計終了後の売上高増を計画しております。さらに会員組織化された企業との取引拡大により、新たな売上高確保を図ります。

商品販売分野では、システム設計案件の受注に伴うIT製品の販売、及びセキュリティパッケージソフト等の販売促進に継続して傾注し、収益性の向上と安定的な成長を目指します。

BPO/サービス分野では、クレジットカード等決済システムの取扱拡大やデジタルサイネージ等の新技術を活用した地域活性化サービスの本格稼働により、継続的な成長を図ります。

2. 今後の業績予想及び今後の実績目標

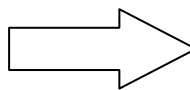
【連結】

単位：百万円

	平成29年3月期
売上高	804
経常利益又は経常損失(△)	△42

単位：百万円

	平成32年3月期
	1,178
	253



今後グループ企業の結合等により売上高、経常利益の増大を見込んでおりますが、本目標には算入しておりません。なお、重要な提携先である北栄社においては、1年以内に大規模な工事受注によるコンサルティング売上高拡大、ならびに利益率が大幅に向上することを見込んでおります。

以上